

枝廣 今日の趣旨説明からお話をしていきたいと思っています。いま、資料確認でも挙げましたが、「日刊 温暖化新聞」というウェブサイト、温暖化について、みんなが考えて、みんなを変えていく そのためのサイトを主宰しています。

こちらのリーフレットにも書いてありますが、温暖化について、「学ぶ」「伝える」「変える」ことをメインの活動として、このウェブサイトの運営をしています。日々のさまざまな世界のニュースを紹介したり、温暖化に関連する基本的なデータを紹介したりするほか、実際に伝えていくためのさまざまなツール、たとえば私がやっているプレゼンテーションのファールも置いてありますし、漫画で温暖化への取り組みを伝えるためのファイルもあります。考えるためのさまざまなきっかけも提供しています。

首相直轄の「地球温暖化に関する懇談会」のメンバーとして、私はたぶん、市民もしくは国民に近い立場として、市民や国民に伝えていく、もしくは市民や国民が考えていることを政府にも伝えていくという橋渡しの役割を期待されているのだと思っています。

「日刊 温暖化新聞」をひとつの土台として自分自身もそういう活動をしてきましたし、政府の懇談会でもそのような立場にいるということで、今回、ぜひこの会をやりたいと思いました。実際に私たちが、一人ひとりがこの中期目標を考えていくときにはまず、「何が必要なのだろう？ 何を知れば、考えられるのだろうか？」ということを考えることが重要です。いま入手している情報がすべてではないからです。断片的な情報だったり、誰が情報を出すかによって偏りがある場合もあります。自分にとって必要な情報は何かを自分で考えて、その情報を入手する。その情報を元に一人ひとりが考えていくことが、一番大事ではないかと思っています。

そういう意味では、今回の会合では、ここで1つの結論を出すということはありません。皆さん、お一人一人が中期目標をどう考えるか。その考える場を提供したいと思っています。

今回、このような考えに賛同して下さって、内閣官房、中期目標の設定にかかわった3つの研究所の研究者の方々、それから経産省と環境省からもオブザーバーとしての参加をいただいて、この会を開催することができました。

私は、中期目標だけではないと思っています。これから、温暖化にしる、そのほかのさまざまな問題にしる、市民が一人ひとり、きちんと考えていくことができるようにならないといけないと思っています。たとえば「国民が負担する」という話になったときに、その負担をどう考えるのか？ それはいくら払うかだけではなくて、それをやることのプラスは何か？ やらなかったときのマイナスはどれぐらいか？ その全体を考えて、私たちが考えていく

必要があります。

そういう意味では、これからもっともっと、一人ひとりが「考える力」を身につけていかなきゃいけないんじゃないかと思っています。そういう意味で、今回の中期目標はよい練習台になるのではないかと、私自身は思っています。

そういうことで、今回この半日の時間ですが、皆さんと一緒に考えを進めて、どういう情報があったら、何がわかれば、私たちは考えることができるのかから考えていきたいと思いません。そういったことを私たち自身も学び、そして政府や研究所の方々にもわかってもらい、次につなげていくことができればと思っています。

中期目標の考え方についてですが、そこで何が大事かは、1つの尺度だけでは考えることができないというのは、皆さんも感じていらっしゃると思います。いろいろ重要な観点があって、その折り合いをどうつけていくのかということが大事です。立場や考え方によって、どの観点を重視するかも、人によって違います。

私がこのスライドで出している3つの点は、おそらく多くの方が考えていらっしゃるポイントと重なっているのではないかと思います。いうまでもなく、一番大事なのは「温暖化を止める」ということです。そのためにいろいろ考えているわけですよね。なので、設定される中期目標は、それが本当に温暖化を、あまり被害が大きくならないうちに止めることに役に立つのかどうか？ どんな中期目標を作っても、温暖化が止められなかったら仕方がないという意味では、これが一番大きなポイントかなと思います。

もう1つは、これから温暖化だけではなくて、いろいろな点で、資源もエネルギーも、これまでのように自由に使えるのではない時代になってくる。これは間違いありません。CO<sub>2</sub>が出せないという意味でもそうですし、エネルギー・資源自体がなくなるという意味でもそうです。そういった時代になったときに、日本がそれでも幸せに、いききと繁栄する国になるには、どういうふうに国の形を変えていったらいいのか？ そのあるべき姿、いわゆるバックカスティングで考えて、それと整合性のあるような形で中期目標を考えていく必要があると思っています。

それは、いまの経済やいまの産業をどうするか、だけではなくて、これから30年後、50年後、100年後の日本のありたい姿、あるべき姿を考えるということでもあります。

もう1つは、温暖化の問題は、日本だけがどんなに一生懸命やっても、止められません。ですから、日本の中期目標の設定が、国際体制をよりよく進めていくためにどのように役に立

つのか？ その点も考えていく必要がありますし、国際的な公平性の観点も、ここに入ってきます。

この3つの点以外にも、皆さんそれぞれの大事だと思われる観点がおありだと思います。それらもちろん意識しながら、まず最初に、内閣官房から鎌形さんに、30分ほど、今回の中期目標をめぐる状況と6つの選択肢についてお話をいただいて、そのあと私が少し補足をして、3つの研究所からそれぞれ来てくださっている研究者の方々に補足をいただき、そして皆さんに考えていただく時間に移っていこうと思っています。

今日、会は17時までの予定で、途中で一度休憩をとります。では鎌形さん、お願いできるでしょうか。